

# ヘミングウェイゆかりの地を訪ねて

高野泰志

## 第4回 ミラノ編

いつの間にか4回も続いてしまったこの連載も、一応今回が最終回ということになります。もともと不定期連載のつもりではあったのですが、たまたま偶然ヨーロッパに行く機会ができたことや、どうしても空いた紙面を埋める必要があったことなど、いろいろな事情が重なってここまで続きましたが、そろそろヨーロッパ旅行のネタもなくなってしまい、次回また「ゆかりの地」を訪ねることがあるまでは当分お預けとしたいと思います。できればどなたかに跡を継いでいただくのがいちばんいいのですが……。

さて今回はミラノ編ということですが、ミラノは観光地なので情報はいくらでも入手できます。あまりこの記事を書く存在価値もないかも知れませんが、ヘミングウェイ関係の場所だけ効率的にまわるために多少のお役に立てればと思います。

### 1. 観光案内所

例によって何の下準備もなし、行き当たりばつりにミラノに到着し、とりあえずホテルを出てその辺の町中を歩き回ってみました。すると途中になんか**ハデな物体**が見えたので近づいてみます。おそらくミラノ観光をした人の中で、それがミラノのシンボル、ドゥオモであることを知らなかったのは私くらいではないでしょうか。ミラノの大半の観光スポットはドゥオモを中心に点在しているので、観光のスタート地点としてもっとも便利な場所であると言えるでしょう。そしてちゃんと『武器よさらば』にも登場します。

ドゥオモは近づいてみると非常に壮麗な大聖堂で、間近で見るとその威容に思わず圧倒されてしまいます。ただ、残念ながら正面は工事のため、写真は側面です。



これまでと違ってミラノは観光地ですので、観光案内所を利用することができました。ドゥオモのすぐ横にあります。中は大勢の人でごった返しておりましたが、これまでの英語も通じない場所で右往左往するのに比べれば、非常に楽に見て回ることができました。案内所の人にヘミングウェイ関連の場所が見たいのだと言うと（英語も通じます！）、一瞬何のことか分からなかったようですが、そのうち「ああ、あの病院跡のこと？」としばらくして急に思い出したようでした。ヘミングウェイゆかりの地を訪ねてミラノに来る人はあまりいないのでしょうか。その人はその病院

がどこにあるのか分からず、数人の人に聞いてまわってもらい、やっと病院跡がどこか分かりました。地図をもらって場所を確認すると、さいわいドゥオモからすぐ近くにあるとのこと。早速その場所へと向かいます。

### 2. 病院跡

病院跡までの道は少し入り組んでいて説明しづらいのですが、歩いて10分もかからないくらいでしょうか。ちょっとだけ表通りからは外れた場所にありますので、おとなしく観光案内に行くか、地図で頑張って「アルモラーリ通り」を探してください。短い通りなのでそこまでたどり着けばすぐに分かると思います。通りの北東側に面した建物です。今は銀行になっていました。



建物自体が通りの端から端までつながっているのですが、どこからどこまでが病院だったのか分かりませんが、この中のどこかにヘミングウェイは入院していたのですね。最初は見逃していましたが、何回も言ったり来たりしているうちに、建物のいちばん右端のところにヘミングウェイの名前が刻まれたプレートが打ち付けられています。イタリア語は分からないのですが、なんと書いてあるのでしょうか。



勝手に入っていいの分かりませんが、せっかくですのでちょっとだけ中におじゃましてみます。銀行自体は普通の町の銀行といった雰囲気ではなく、**金持ち用**なののでしょうか、厳重に

閉じられた扉の前には監視カメラがあって、内側から開けてもらえないと入れないようになっています。仕方がないので廊下のようなどころまで我慢することに。中はこんな感じです。



### 3. カフェ・ビッフィ

あまりうるついても怪しまれますので（すでに十分不審げな目で見られていましたが）、とりあえずその場は引き上げてドゥオオモ広場に戻ります。そういえばこの広場も『武器よさらば』で二、三度言及されていましたね。

のちに松葉杖をつけて歩けるようになると、私たちはビッフィかグラン・イタリアに夕食を食べに行き、ガレリアの路面に出したテーブルに座った。

グラン・イタリアというのは見つけられませんでした。ビッフィはすぐに見つかりました（小説ではグラン・イタリアの方が大きく扱われていますね。グラン・イタリアはインターネットでも見つけられないのでうつぶれたのでしょうか）。まずはガレリアから。小説を読んだときガレリアがなんなのかさっぱり分かっていませんでしたが、まあ要するに**アーケード付商店街**のイタリア版なんですね。



商店街というにはちょっと立派すぎる印象ですが、写真の中央にあるアーチのようなところが入り口です。ドゥオオモ広場のすぐ横にあります。このまま中をまっすぐに抜けるとスカラ座広場です。確かフレデリックとキャサリンもスカラ座に行ったんでしたっけ。

で、ビッフィはこのガレリアに入ってすぐのところにあります。たしかに「路面に出したテーブル」で食事をしている人たちがたくさんいます。



### 4. おわりに

ガレリアやカフェ・ビッフィなど、さも小説の内容を覚えていて探したように書きましたが、実際には適当にぶらついている間に偶然見つけて写真に撮って帰ってきたといった方が正確です。ほんとうに行き当たりばつりの旅行でした。『武器よさらば』を持って行って、片手に歩き回ればもう少しいろいろと発見できたのかも知れませんが、別に取材のために行ったわけでもありませんし、こういうトラブル続きの旅行の方が楽しかったりしますので、まあ自分では満足しています。

ちなみにミラノはもちろん、ヘミングウェイ関係の場所以外にもたくさん魅力的な場所があります。ドゥオオモの近所にも、名前の発音できないお城があったり（観光ガイドくらい持って行けといわれそう。有名な場所らしいです）、聖堂や広場は大小無数にあります。そして何より、ミラノに限ったはなしではありませんが、見知らぬ異国の地をぶらぶらと歩き回っているだけでとても楽しい時間を過ごすことができました。『武器よさらば』の舞台でその同じ空気を（注：あまりうまくはない）吸っているだけで十分満足したのでした。

どなたかこれからヘミングウェイゆかりの土地を訪れた方は、是非とも旅行体験記を寄稿してください。4回にわたって私の無計画かつ破天荒な旅行におつきあいいただきましてありがとうございました。

\*写真の印刷が不鮮明だと思います。ホームページ掲載版はもう少し鮮明な画像になっておりますのでそちらもご覧ください。

<http://www.soc.nii.ac.jp/hsj2/newsletter.html>

### エッセイ募集中

編集室では随時会員の皆様のエッセイ投稿をお待ちしております。「ヘミングウェイと私」というテーマで、また自由テーマで、編集室までお送りください。分量は一応800字から1600字程度としておりますが、それほど厳密に制限は設けておりません。紙面をより豊かにしていくため、ぜひとも皆様の投稿をお願いいたします。投稿は電子メールもしくは郵送で。

宛先：yasushi@iwate-pu.ac.jp

〒020-0193 岩手県滝沢村滝沢字菓子152-52 公立大学法人岩手県立大学共通教育センター 高野研究室宛